

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連 (北陸)	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・売上が前年同月比で増加している部門が大半を占めてきた。消費税増税の影響はほとんど感じられず、取引先の様子からも堅調さがうかがえる。	
		スーパー（店長）	お客様の様子	・消費税増税の影響で売上が多少沈むと想定していたが、5月に入ってからは影響なく推移している。	
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・消費税増税に伴う3月末のまとめ買いの影響は小さくなり、客は増税前の状況に近い状態で買物をしている。税別での売上、購入点数ともに3月末の水準に戻っている。	
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車種によりばらつきがあるが、高級車の売上が当初の計画を上回った。	
		その他小売〔ショッピングセンター〕	お客様の様子	・足元の購買動向は決して悪くない。ただし客は無駄なものは買わない。単に量や価格だけでなく内容や品質を重視し、購買決定をしている。多少高価でも納得できるものを選んでいく。	
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・4月の消費税増税で一部高額品などは苦戦しているが、総じて駆け込み需要の反動は限定的である。5月終了時点での販売量は前年同月と比較しても落ちていない。	
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・新料金プランの予約受付が始まり、急激に来客数が伸びている。客に提案できる機会も増え、今月末で失効するポイントも後押しとなり、機種変更台数も増加している。	
		通信会社（役員）	単価の動き	・上位コースの契約が好調であり、契約数は好調が続いている。	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・前年同月と比較して、来客数、売上が5%ほど増えている。現在のところ、消費税増税の影響は感じられない。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量は消費税増税前の駆け込み需要の反動による極端な落ち込みから脱却し、2月以降徐々に回復している。前々年の同月と比較して増加しているが、地域格差が出てきている。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・客の動きが良くなってきており、まだ例年並みには戻っていないが、契約件数も増加している。展示場への来場者数や問い合わせが増えてきており、今後契約件数が例年並みに戻りそうな動きがみられる。	
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・4月は消費税増税もあり来客数が減少していたが、最近は客の動きが活発になっている。	
		変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・ポイントアップなどの販促を行っているが反響が弱い。なかなか購買につながらない。
			百貨店（売場主任）	それ以外	・消費税増税後は商材による売上のばらつきが大きい。駆け込み需要のあった高額商材の回復が今一つである。
			百貨店（営業担当）	販売量の動き	・4月は消費税増税の影響をあまり受けなかったことから、5月の売上が心配されたが、大型連休にあわせて家族向けの催事を行い、2週目からは物産の催事を行ったため、フリー客が多く、買い回りにつながった。しかし、フリー客が多かったことから単価が低く、まとめ買いより単品買いがほとんどで、苦戦した店舗もあった。
			スーパー（店長）	お客様の様子	・消費税増税後の客の動向を見ていると、雑貨や酒については買い置きが残りがまだあるようで購買が戻ってきていないが、生鮮食品や日配品については増税前の状態に戻っているようである。
			コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上はこの6か月間、前年同月比で横ばいの状態である。近隣の競合店出店以来、売上は全く変化していない。
			衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・消費税増税は徐々に定着しているようで、客に大きな混乱はなく推移しているが、売上については良いとはいえない状況が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・5月の売上は前年同月と同程度である。しかしその中身には変化があり、オーダースーツは消費税増税の反動から完全に戻っているが、オーダーシャツは15%程度低下している。消費税増税で身近な物を節約していると推測される。	

乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・新車の商談にかかる時間が長くなり、なかなか決まらない。また、新車から中古車への変更での契約が目立ってきた。	
高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・今年の動向として、昼も夜も来客数は前年同月比で3%ほど減少しているが、単価は5%近く上がっているため、売上はわずかに伸びている状況が続いている。	
一般レストラン (店長)	来客数の動き	・消費税増税の影響は思いのほか軽微に感じる。ただし、先行きが明るいといえるほどではない。	
一般レストラン (統括)	来客数の動き	・外食関係について、1週間単位で来店客数を見た場合、大きな増減が無い状況が続いている。分かりやすい価格表示をすることで、客は消費税増税後の価格を気にすることなく安心して利用していると感じられる。	
スナック(経営者)	来客数の動き	・今月の来客数は前年同月とはほぼ変わらずであったが、大型連休のある月は客の出入りが減少する傾向にあるため、やや良かった前月と比べると7割であった。客によると、今はぎりぎりの状態だが、小さな部品商社などでは忙しくなってきたとのことである。	
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・4月の消費税増税以降、直近での予約発生件数は前年同月を下回っている。	
都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊部門では外国人の来客数が20%以上伸びている。国別では台湾、ASEAN、イスラエル、欧米の順に多い。一方で日本人の宿泊客数は減少しているが、宿泊部門全体では微増で推移している。レストラン部門は横ばい。宴会は新幹線開通を控え、大型のMICEが次年度になっていることから、やや減少している。	
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・出張などでの申込件数が増加してきた。企業の営業活動が活発化してきているようだ。	
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・消費税増税前のまとめ買いの反動減の影響が残っている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・5月は大型連休もあり休日が多かったため、売上はあまり良くなかった。また消費税増税により客の節約志向が一段と強くなっている。	
タクシー運転手 通信会社(営業担当)	販売量の動き お客様の様子	・売上は前年同月比で少し減少している。 ・消費税増税前の駆け込み需要が終わり、4月以降は売上が減少傾向になると見込んでいたが、今のところ前年同月と同水準で推移している。	
テーマパーク (職員)	来客数の動き	・国内からの団体客は前年並みに推移したが、個人客の動きは前年同月と比べるとやや鈍い。一方、海外からの客の動きは強く、全体として横ばいを堅持している。	
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・企業の業績や賃金の上昇など内容の良い話は聞くが、実際の消費に結びついていない。商品単価の下落と、契約の競合激化で厳しい状況が続いている。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・連休明けの商店街は客がおらず活気がない。セール待ちの状態である。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・高額品が動き始めた様子はあるが、ゴールデンウィーク後も売上は期待していたほど増加せず、低迷状態である。休日も買物をする客の数が目に見えて少ない。
	一般小売店[精肉](店長)	来客数の動き	・来客数自体はそれほど減少していないようだが、客単価が低下しているようだ。
	一般小売店[事務用品](店員)	販売量の動き	・商品価格の値上げや消費税増税のため、客からの問い合わせを受けて見積を出しても購入を見送られるケースが多い。
	一般小売店[書籍](従業員)	お客様の様子	・消費税増税や原油価格の高騰など、消費者にとって厳しい状況が続いており、景気はやや悪い方向に向かっている。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・消費税増税直後の4月と異なり、5月の売上は食料品関係が前年同月よりやや上向きの傾向にある。日常的に消費する商材については、大分消費税増税前のレベルに戻ってきている。ただし一般的に言われるぜいたく品については、前年同月比で3~4割ほどのマイナスになっている。身近なものについては回復傾向にあるが、緊急性のないぜいたく品などについては、まだ回復基調が見られない。

		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・20年間営業していた近隣の駐車場が、機械の老朽化のため3月末で廃業した。その影響もあり前年同月と比較すると来客数が減少している。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税後、5月後半になっても、アイス、米、雑貨、文具品、雑誌、酒類などの買上点数が前年同月を1割以上下回っている。
		コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・消費税増税の前に買いだめされたであろう酒類、タバコの売上が大きく前年割れしている。それに伴い来客数も減少し、全体的にも売上は悪化した。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・消費税増税により、購買する商材の優先順位が変化していると感じる。
		衣料品専門店（総括）	来客数の動き	・直近の傾向として、客単価がやや上昇傾向にあり、客1人当たりの購買数量もやや増加傾向にあるが、買上客数は大幅に減少している。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・消費税増税の反動が続いている。買い控えが多い。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・消費税増税後、受注ペースが上がらない。個人客の消費動向が高額商材には向いていないようだ。この状況がいつまで続くのか予見できず、不安である。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・5月の自動車の販売量は前年同月比114%である。平成26年2月の販売量は前年同月比123%で、3か月前との比較では下向きである。消費税増税の影響と推察される。
		自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・例年よりゴールデンウィークに遠出する客が少なかったのか、車のメンテナンスや関連商材の動きが鈍く、来客数、販売単価が前年同月を大きく下回っている。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・今月は前年同月比で売上が97.6%、宿泊客数97.4%、宿泊単価100.2%であった。宿泊実績では個人客より15名以上の団体の減少が多かったため、個人客のウエイトが高まり、結果的に宿泊単価は上昇した。予約は高単価の棟より低単価の棟にシフトしており、これは消費税増税の影響によるものといえる。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・3か月前と比べ、1日当たりの平均売上及び入場者数が減少している。
	悪くなっている	スーパー（統括）	販売量の動き	・3か月前は消費税増税前の駆け込み需要があり売上は高い水準だったが、その時期と比較すると現在の売上は悪い状態である。買い置きができない商材に関しては4月後半から販売量が回復しているが、酒や飲料、調味料、雑貨、たばこなどの買い置きのできる商材は、依然として販売量が少ない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は近隣に競合店ができた影響で減少している。消費税増税により商品の単価は上昇しているが、客単価は低下している。
		家電量販店（本部）	お客様の様子	・客の様子から積極的な購買意欲がほとんど感じられない。売場によっては客がほぼゼロに近い時間もある。
		その他専門店【酒】（経営者）	販売量の動き	・消費税増税以降、売上が減少しており、景気の回復は全く期待できない。
		その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・5月に入ってから入会者数が増えていない。
企業動向関連 (北陸)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注状況は好調である。6～8月の受注状況も良くなってきた。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・欧州、北米からの受注も順調に伸びている。国内は、生産性向上設備投資促進税制や補助金により引き合いが増えてきている。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工事発注量が増加傾向で推移し、受注価格競争は一部を除いて緩和傾向が続いている。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は増加傾向にあるが、加工賃が上がりにくい状況が続いている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の受注は3か月前と比べて横ばいである。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要による工事がまだ続いており、好調を維持している。

	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・材料、部品などの仕入先の話によると、消費税増税後、受注量は全体的に一旦落ち込んだものの、まだ完全には戻っていないが、若干持ち直しつつあるようだ。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前の3月は年度末であり、工事の完成に向けて多忙を極めていたが、4～5月の年度初めは例年どおり公共事業の発注がほとんどなく、当社の受注も2件に過ぎず、人余り感が強かった。しかし、これは例年のことであり景気が後退したとは感じていない。
	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて状況はあまり変わっていない。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・消費税増税の反動はあるが、落ち込みは想定内の範囲内であった。
	司法書士	取引先の様子	・消費税増税後も、住宅建設、不動産取引はあまり減っておらず、駆け込み需要の前と同程度はある。
	税理士（所長）	取引先の様子	・景気は、消費税増税前の駆け込み需要の時期と比較すると物量的にはまだ弱いところがあるが、これまでは海外に流れていく設備投資が多かったことに比べて、現在は国内での設備投資の話が徐々に聞こえてきている。機械関係の出荷先から、中国や東南アジアではなく、国内の工場に生産ラインなどをつくるという商談がいくつか生まれていると聞いており、やや明るい兆しではないかと考えている。
	やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き
		輸送業（配車担当）	取引先の様子
	悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き
雇用関連	良くなっている	-	-
(北陸)	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き
		職業安定所（職員）	求人数の動き
		職業安定所（職員）	求人数の動き
変わらない		人材派遣会社（役員）	求人数の動き
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き
		民間職業紹介機関（経営者）	求職者数の動き
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・5月の求人広告売上は前年同月の6割程度である。
悪くなっている	-	-	-